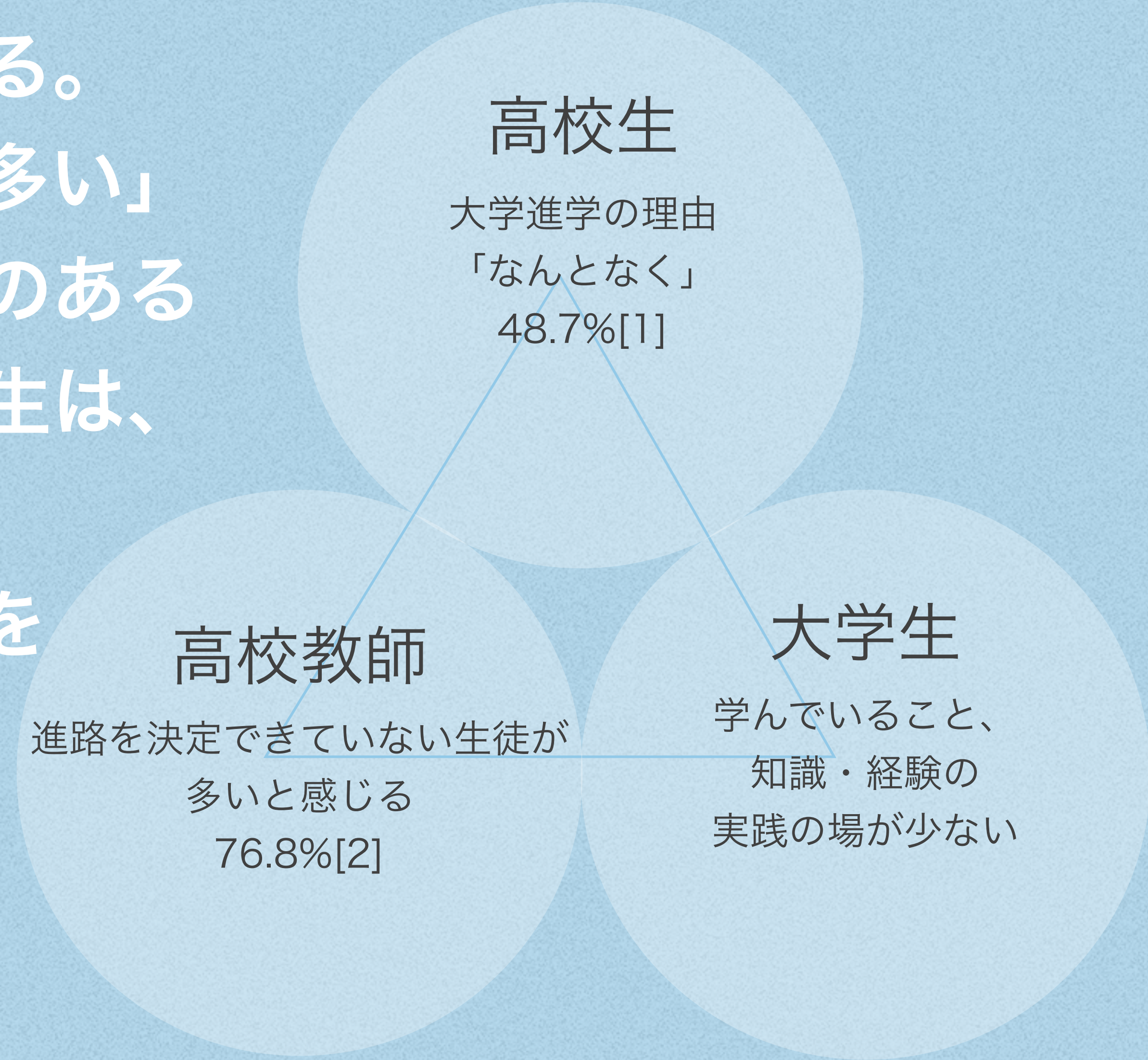


くまもとみらいずむ

背景

高校生の半数近くは、大学への進学理由が不明瞭である。また、多くの高校教師が「進路を決定できない生徒が多い」と感じている。そもそも高校生が未知の分野及び興味のある分野を実践的に知れる場がない。特に熊本市外の高校生は、大学生活や授業を知る機会がない。さらに、大学生は自分の学んでいることや知識・経験を実践できる場がない。

[1]Between,2014,2-3月号,pp.21.
http://shinken-ad.co.jp/between/backnumber/pdf/2014_2_tokubetsu.pdf
 [2]高校の指導の実態,Benesse教育研究開発センター 高校データブック2013,pp.77.
http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/kou_databook/2013/pdf/P66-79.pdf



課題

- 「高校生がやりたいことを見つけ出せるようにすること」
- 「大学生が学んだことを実践できる場所の用意・地域への還元を可能にすること」

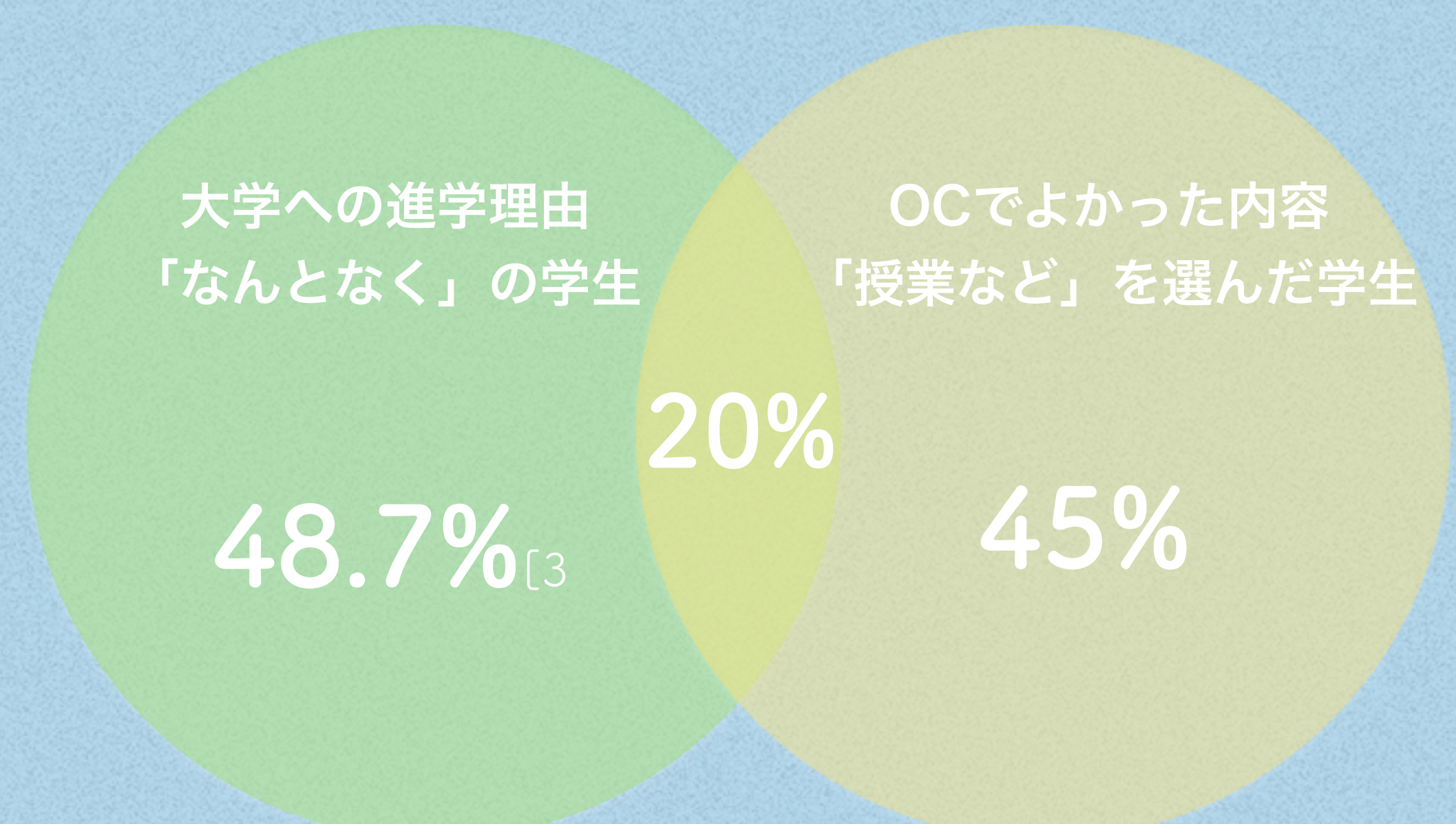
実施内容



大学生が授業や課外活動で学んだことを高校生向けに簡略化し、高校へ直接教えに行く。また、熊本市外にある高校などでは、リアルタイムのビデオ授業などで、機会の増加を行う。例えば、プログラミングの授業なら基礎を一から教えるのではなく、高校生が作りたいサービスに必要なことのみを教え、考える時間を作る。企画や設計方法、不明なことがある場合の調査方法など実務に必要なことを中心に教える。他にも、私たちKumarismは熊本県内の旅行情報を運営しているため、ウェブサービスの作り方やビジネスにおけるSNSの活用方法、インターネット広告運用方法を教えることも可能。各々の課外活動の知識や体験を共有することも可能。また、大学生はキャリア教育についてNPO法人などからノウハウを学び、自らの進路も考える機会を作る。

結果

およそ20%の高校生の進路決定をサポート
 具体的な目的を持ち、進学することが可能



[3]高校生白書2013大学短大編,pp26.
https://schooljs88.com/assessment/wp25/dai/wp25d_P26.pdf